

名古屋市立大学病院が院内ネットワークに NEC の SDN を採用 ～ネットワークの物理統合と可視化で運用効率を向上～

NEC は、名古屋市立大学病院（所在地：名古屋市瑞穂区）に、SDN を活用した新たなネットワーク基盤を納入した。新たなネットワーク基盤は、SDN を実現する NEC の「UNIVERGE PF シリーズ」を活用したもので、従来、部門やシステムごとに構築されていた複数のネットワークを物理的に統合し可視化することで、一元的な管理が可能になった。また、目的によって論理的にネットワークを分けることで、医療現場の安全性・利便性とネットワークのセキュリティを両立している。

名古屋都市圏の中核医療機関として、地域医療を支える名古屋市立大学病院は、「笑顔と感動にあふれる病院」を経営理念として掲げ、高度先進医療の推進、信頼される医療人の育成に力を注いでいる。また、医療 IT の活用に積極的に取り組み、IT インフラの柔軟性の向上と迅速な提供を目指し、いち早くサーバの仮想化や、SOA による共通連携基盤を構築した。一方、ネットワーク領域では、各診療部門で使用する医療機器の専門性や、セキュリティの観点から、部門やシステムごとに個別のネットワークが構築・運用されていた。その結果、部門ごとに個別に最適化されたネットワークが乱立、構成が複雑化し、病院情報システム部門の運用管理者が正確な状態を把握することが困難になっていた。さらに昨今、ネットワークに接続する医療機器や移動して利用する機器の増加や、頻繁に発生するネットワークの設定変更、誤接続のリスクなど、医療技術の進歩にネットワークが追従できていないという課題が生じていた。

今回、名古屋市立大学病院が採用した新たなネットワーク基盤は、SDN を採用することで、ネットワーク全体を可視化し、統合管理を可能にするとともに、運用効率の向上や、ハードウェアと収納スペースの削減も実現した。また、ネットワーク仮想化を活用した無線

LAN との連携により、医療機器や電子カルテ端末に加え、スマートフォンなどの各種デバイスを、最新医療に即応したサービスとして提供できる院内ネットワークインフラを実現した。

名古屋市立大学病院の院内ネットワークの特長は、次のとおり。

- 目的別に論理ネットワークを設定し、安全性・利便性とセキュリティを両立：従来、部門ごとに構築されてきた複数のネットワークを物理的に統合し、このなかに電子カルテ、医療機器、スマートフォンなどの目的別に分離された論理ネットワークを構成。これにより、目的別システムごとにデータのセキュリティを確保した安全な運用ができるとともに、無線 LAN に対応した最新型の生体情報モニターの導入や、病室や手術室内でスマートフォンにより撮影された記録写真を即座に転送し電子カルテに登録できるといった、新たな医療サービスも導入された。
- ネットワーク管理の可視化により、運用効率が向上：運用管理画面では、物理ネットワークと論理ネットワークを同時に可視化できるため、一元的に管理・制御することができる。これにより、ネットワーク全体の構成やデータの流れを把握できるとともに、従来、設定作業に多くの工数がかかっていた機器の追加や新しい医療システムの追加などの際の設定変更も容易になった。
- 統合化により機器設置スペースを削減：1000 台以上のデスクトップ仮想化によって大幅に増加した 4000 を超える IP アドレスを一か所に集約した 8 台の SDN スイッチでルーティング。サーバの仮想化と合わせて、機器収納ラックを 17 台から 6 台に、設置面積を 65% 削減した。

NEC SDN 戦略本部

E-mail : inquiry@sdn.jp.nec.com

ドイツサッカー連盟がビッグデータからスマートな意思決定を導き出し ワールドカップ・ブラジル大会の出場選手のパフォーマンスを向上

本年6月、SAP AG（以下、SAP）とドイツサッカー連盟（以下、DFB）は、ブラジルのカンポ・バイアーで共同記者会見を行い、SAPとDFBの共同イノベーションプロジェクトの成果として、サッカー向けソリューション「SAP Match Insights」を紹介し、サッカーの次のレベル向上に向けた相互的な取り組みをあらためて強調した。本ソリューションは、SAP HANA プラットフォーム上で実行されるもので、トレーニング、事前対策、トーナメントの分析をスムーズに行うことができる。さらに、監督やスカウトは、大量のデータを処理し、各試合の主要な状況を特定・評価することで、選手・チームのパフォーマンス向上に役立てることができる。

SAPとサッカー・ドイツ代表チームの監督の共同プロジェクトでは、フィールドでのパフォーマンスを高め、チームを優勝へと導いてくれる画期的なソリューションの開発を目指した。SAP Match Insightsのユーザーインターフェースは、選手・監督が簡単に使用できるものとなっており、チームの結果報告と今後の試合の対策について、より双方向の対話を促すことができる。SAPのブランドアンバサダーで、ドイツ代表チームのマネージャーでもある、オリバー・ビアホフ氏は、「SAPの参加により、監督、選手、ファン、メディアにとっての、サッカー体験が変わりました。想像してみてください。わずか10分の間に、10人の選手と3つのボールによって、700万件以上のデータポイントが生成されることもあります。SAP HANAであれば、これらをリアルタイムで処理できるのです。SAPを使用することで、ドイツ代表チームは、この膨大な量のデータを分析し、トレーニングをカスタマイズして、次の試合への対策を立てることができます」と語っている。

ドイツ代表チームは、早期導入フェーズで SAP Match

Insights を使用し、ワールドカップ・ブラジル大会の各試合について、対策と事後分析を行う。SAPのスポーツエンターテインメント業界向けの製品ポートフォリオの強化に伴い、SAP Match Insights は、他のクラブやサッカー連盟にも提供される予定だ。

得られた洞察は、より情報に基づくコメントの発信が可能になるという意味で、メディア業界にもメリットをもたらしている。SAPのアプリケーション担当シニアバイスプレジデント兼スポーツ & エンターテインメント部門イノベーション責任者のファディ・ナオウム氏は、「監督、選手にとって、ビッグデータは情報の文脈を理解し、情報に基づく結論を導き出すための最高のリソースであり、トレーニングや戦術の最適化を図ることが可能です。今こそこれらの情報を、スポーツメディアやファンにも公開すべきです」と語っている。

SAPとDFBが、連盟のビジネスプロセスの強化に向けたパートナーシップを発表したのは2013年のこと。そして、最近では、パートナーシップの範囲が拡大され、ドイツ代表チームのフィールドでのパフォーマンスを強化するための、ソフトウェアベースのソリューションの共同イノベーションも対象となっている。SAP Match Insightsは、こうした目的による初のプロジェクトだ。DFBは以前も、powered by SAP HANAによる、迅速に導入可能なSAP CRMソリューションや、SAP Event Ticketingソフトウェアの実装に成功しており、これらはいずれも、SAP HANA Enterprise Cloud上で稼働している。

SAP ジャパン TEL : 0120-786-727

アシスト

セガが統合データ分析のプラットフォームに「QlikView」を採用

アシストが取り扱う連想型高速インメモリ BI プラットフォーム「QlikView」が、セガ（本社：東京都品川区）のデータ分析を支える情報分析プラットフォームに採用された。

セガは「コンシューマ・オンライン事業」と「アミューズメント事業」を核としながら、時代を先取りする新しい“遊び”の創造に取り組んでいる。世界有数のソフト資産と技術応用力をもとに、様々なエンターテインメントを発信する同社では、これまで製品・サービス単位で管理してきた各種データを統合的に活用する仕組みを模索していた。その一環としてセガは、事業ドメインを越えて集約した様々な製品・サービスのデータを統合・分析するプラットフォームとして「QlikView」を採用した。その理由は、●事業ドメインごとに管理されている様々な形式のデータを簡単に統合して、全社で活用可能な仮想データウェアハウスを作ることができる●一般的なオフィスツールでは取り扱うことが難しい大量のトランザクションデータをスピーディに扱うことができる●ベンダーやIT部門ではなく、ビジネス部門のユーザー自身がダッシュボードを作成し、Webブラウザ上で関係者とデータを共有できる●データベースについての専門知識のないユーザーでも、自分の見たい切り口で動的にデータを参照し、必要なデータをその場で抽出できる●QlikViewの無料のパーソナル版は無期限で試用できるため、試用期間の制限に縛られず購入前の検証を十分に行える、など。

セガでは、統合データに対する社内の関心は非常に高く、製品・サービスの設計やマーケティング施策を行う上での有益な情報として活用され始めている。

アシスト TEL : 03-5276-5850

ファイア・アイ

アミューズがファイア・アイを導入してセキュリティ対策を実施

ファイア・アイは、大手総合エンターテインメント企業であるアミューズ（所在地：東京都渋谷区）が同社のネットワークセキュリティ強化のためファイア・アイの脅威対策プラットフォーム「FireEye NXシリーズ」を採用したことを発表した。

幅広いジャンルで活躍するアーティストが多数所属するアミューズでは、オンラインショップやファンクラブシステムなど、インターネットを重要なビジネスツールとして活用している。国内の誰もが頻繁にアクセスする有名アーティストのサイトを多数抱え、またマスメディアとも密接に関わる業態であるため、同社のネットワークは常にセキュリティ脅威にさらされている。一方、ゼロデイ攻撃や標的型攻撃など、高度な技術を使ったセキュリティ脅威のリスクが高まってきたこともあり、同社では未知の脅威に対する社内ネットワークのセキュリティ強化が課題になっていた。

アミューズでは、メールサーバの障害を機に社内マルウェア感染の調査を実施。その際に試験導入したFireEye NXシリーズがすでに導入済みのアンチウイルスソフトで検知できなかったマルウェアを検知できたことで、同製品の導入を決定した。アミューズのIT企画部専任次長の清水邦夫氏は、「いくつかあるマルウェア対策製品の中でもFireEye NXシリーズが持つ未知の脅威に対する検知能力の高さや、既存のファイアウォールやネットワークの構成を変更することなく導入できることを高く評価しました。ファイア・アイを導入後、マルウェアは継続的に検知されており、情報漏洩などの事故が未然に防止できているという安心感は計り知れません。ファイア・アイによって、お客様と私たちの信頼関係がより強固なものになっていることを確信しています」と語っている。

ファイア・アイ URL : <http://www.fireeye.co.jp/>

アルカテル・ルーセント

NTT ドコモのモバイルバックホールの需要を IP 技術でサポート

アルカテル・ルーセントは、同社の IP 技術が NTT ドコモに採用されたことを発表した。これは、動画や音楽のストリーミング配信やマルチプレイヤー・ゲームなど、高速モバイル・ブロードバンド・インターネット・サービスに対する急増中の需要への対応で、NTT ドコモをサポートするものだ。

NTT ドコモは、システムの一環として、アルカテル・ルーセントの「7450 Ethernet Service Switch (以下、ESS)」を使用し、バックホールネットワークの速度と容量を大幅に向上させて、日本国内でのモバイル・ブロードバンド・サービスに対する需要の爆発的増加に対応している。採用のポイントは次のとおり。

◆ NTT ドコモは現在、アルカテル・ルーセントの IP 技術を使用することで、スマートフォンやタブレットなど、ネットワーク対応端末の普及拡大に伴う、広帯域幅のコンテンツやアプリケーションに対する需要の高まりに対応するため、ESS を導入している

◆ アルカテル・ルーセントのイーサネットサービススイッチには、NTT ドコモが LTE データを高速に伝送するのに欠かせない要件である、100Gbps イーサネット技術に高度な QoS 機能や高速スイッチ技術が統合されている

◆ 7450 ESS は柔軟性にも優れており、NTT ドコモは、顧客の需要拡大に応じ、ネットワークを容易にアップグレードすることが可能

◆ 7450 ESS は、エネルギー効率も非常に高く、設置スペースと消費電力を最小限に抑えつつ、ネットワークパフォーマンスを向上できる。日本市場では、省電力性と省スペース性は必須の要件となっているため、このような特性は、重要な要素になっている。

日本アルカテル・ルーセント TEL : 03-6431-7000

OKI

東京東信用金庫にスマホ対応の「軒ナビゲーション」を納入

OKI は、東京東信用金庫（本店：東京都墨田区 以下、東京東信金）に、渉外員の業務支援を行うスマートフォン対応のシステム「軒ナビゲーション」を納入した。東京東信金は本システムの導入および渉外員に約 400 台のスマートフォンを配備することで、高いセキュリティを確保しながら渉外業務の効率化を図っている。本年 3 月に本システムの稼働を開始し、同年 5 月に全店 (68 店) の展開が完了した。

東京東信金は、東京都墨田区に本店を置き、東京都の東部地域から埼玉県南東部および千葉県北総部を事業区域としている。同信金は、2006 年に OKI の営業支援システム「軒ナビゲーション」を導入し、地域のお客様を重視した渉外活動を行ってきた。システム更改にあたり、既存の勘定系ホストや印鑑照会システムと連携ができ、多機能なスマートフォンが利用できることを採用条件として考えていた。

OKI が新しく開発したスマートフォン対応版の軒ナビゲーションは、端末にスマートフォン (Android) を採用し、オンライン接続によりリアルタイムでの情報のやり取りを実現することができる。これにより渉外員は、オンラインでの印鑑照会に加えて最新の顧客情報・商品情報や金庫内情報の参照が可能となり、さらに機動的な渉外活動ができるようになった。また、スマートフォンの採用により、従来のハンディ端末に比べて小型・軽量化とタッチパネルによる操作性が向上し、渉外員の負担を軽減した。

同システムは、スマートフォンと連携するにあたり、OKI の「MoBiz Platform」を利用している。これは、スマートフォン用の業務アプリケーション開発プラットフォームで、端末内データのセキュリティを確保している。

OKI 統合営業本部 金融営業本部 TEL : 03-3454-2111